

設置計画の概要

事項	記入欄
事前相談事項	事前伺い
計画の区分	研究科の専攻の設置
フリガナ	コクリツダイガクホウジン キョウトコウゲイセンタイダイガク
設置者	国立大学法人 京都工芸繊維大学
フリガナ	キョウトコウゲイセンタイダイガク
大学の名称	京都工芸繊維大学 (Kyoto Institute of Technology)
新設学部等において養成する人材像	<p>【工芸科学研究科 デザイン学専攻 (博士前期課程)】</p> <p>① 時代に応じて変化する社会的課題に対し、モノの造形に留まらず、デザイン思考の展開によって新たなサービスの創造と社会実装が行える能力を有する人材を養成する。</p> <p>②</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新しい価値を創造する能力 <ul style="list-style-type: none"> ・アイデアを的確に表現できる能力 ・デザインとビジネス、テクノロジーの専門的知識を融合することで製品やサービスを革新する能力 2. 異分野を連携・横断する能力 <ul style="list-style-type: none"> ・異分野の専門家集団の中で、課題発見、リサーチ、アイデア発想からその具現化へのプロセスを主導できるディレクション能力及びマネジメント能力 ・グローバルとローカル双方のフィールドで活動するために必要な課題発見能力、ファシリテーション能力 3. 新しい環境(場)を創造する能力 <ul style="list-style-type: none"> ・様々な社会課題に対し革新的な解決策を導くことのできる優れた発想力 ・社会実装に必要なものづくりの知識とビジネスマインド <p>③ 修了後は、建設・不動産業、情報通信、繊維・機械器具・電子関係、金融業、卸売・小売業などの分野の企業や建築設計事務所、デザイン事務所等において、建築士、インダストリアルデザイナー(工業デザイン)、プロダクトデザイナー(製品デザイン)、グラフィックデザイナー、技術者、経営・営業企画職等のほか、博物館施設等における学芸員(キュレーター)としての活躍が期待される。また、一定の企業経験を経た後に、起業家として活動することも期待できる。</p>
既設学部等において養成する人材像	<p>【工芸科学研究科 デザイン学専攻 (博士前期課程)】</p> <p>① (デザイン学領域)</p> <p>モノづくりに関わる専門的なデザイン能力を身につけ、異分野の専門家との混合チームでデザイナーとして力を発揮でき、アイデアを実現するためのプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を身につけている人材を養成する。</p> <p>(価値創造学領域)</p> <p>美術、デザイン、建築などの作品や作者についての基本的な知識を習得し、それを踏まえて作品の分析と文献の解読による理論構築をすとともに、対象の「価値」を「キュレーション」(「企画」「編集」「ディレクション」「展示」という形式でも示しうる能力を身につけている人材を養成する。</p> <p>② (デザイン学領域)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プロダクト、グラフィック、インテリア等、ものづくりに関わる専門的デザイン能力 2. 異分野の専門家との混合集団を主導し革新的な製品・サービスを創出する実践的能力 <p>(価値創造学領域)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 芸術作品、建築作品などが有する歴史的・文化的背景についての考察力、批判精神、芸術的洞察力 2. 作品、制作者の価値をみずからの視点で発見できる能力および、展示行為の中で価値付けることのできるキュレーション能力 <p>③ 修了後は博士後期課程への進学や、建設業、情報通信、化学工業・機械器具等の分野の企業やデザイン事務所等において、インダストリアルデザイナー(工業デザイン)、プロダクトデザイナー(製品デザイン)、グラフィックデザイナー等の進路に就くほか、博物館施設等における学芸員としての進路がある。</p> <p>【工芸科学研究科 デザイン経営工学専攻 (博士前期課程)】</p> <p>① デザインマインド、経営感覚、技術的センス、グローバルな視点を有し、さらに感知力柔軟な発想、プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を身につけ、問題発見、関連要因の調査研究、構想の企画立案から具現化へのプロセス推進の方法論およびマネジメント能力を実践的に修得した人材を養成する。</p> <p>②</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. デザインマインド、経営感覚、技術的センス、とりわけ感知力と柔軟な発想・構想力 2. グローバルな視点とローカルな視点、コミュニケーション・プレゼンテーション能力 3. 問題発見、関連要因の調査・探究、構想の企画立案から具現化へのプロセス推進、およびトータルなマネジメント能力 <p>③ 修了後は博士後期課程への進学や、建設・不動産業、情報通信、繊維・機械器具・電子関係、金融業、卸売・小売業など分野の企業において、インダストリアルデザイナー(工業デザイン)、プロダクトデザイナー(製品デザイン)、技術者、経営企画職、営業職などの進路がある。</p>

新設学部等において 取得可能な資格	【工芸科学研究科 デザイン学専攻（博士前期課程）】 高等学校教諭専修免許状(工業) ①国家資格、②資格取得可能 ③修了要件単位に含まれる科目のほか、所定の教職関連科目の履修が必要 学芸員 ① 国家資格、② 資格取得可能、③ 学部の学芸員資格取得要件科目の履修が必要
----------------------	--

既設学部等において 取得可能な資格	【工芸科学研究科 デザイン経営工学専攻（博士前期課程）】 高等学校教諭専修免許状(工業) ①国家資格、②資格取得可能 ③修了要件単位に含まれる科目のほか、所定の教職関連科目の履修が必要 【工芸科学研究科 デザイン学専攻（博士前期課程）】 高等学校教諭専修免許状(工業) ①国家資格、②資格取得可能 ③修了要件単位に含まれる科目のほか、所定の教職関連科目の履修が必要 学芸員 ① 国家資格、② 資格取得可能、③ 学部の学芸員資格取得要件科目の履修が必要
----------------------	--

新設学部等の概要	新設学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等		開設時期	専任教員		
							学位又は称号	学位又は学科の分野		異動元	助教以上	うち教授
	工芸科学研究科	デザイン学専攻(博士前期課程) [Master's Program of Design]	2	45	-	90	修士(工学)	工学関係	平成30年4月	デザイン経営工学専攻	11	6
デザイン学専攻										14	5	
新規採用										1	0	
計										26	11	
既設学部等の概要	既設学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等		開設時期	専任教員		
							学位又は称号	学位又は学科の分野		異動先	助教以上	うち教授
	工芸科学研究科	デザイン経営工学専攻(博士前期課程) (廃止)	2	20	-	40	修士(工学)	工学関係	平成14年4月	デザイン学専攻	11	5
退職										1	1	
計										12	6	
工芸科学研究科	デザイン学専攻(博士前期課程) (廃止)	2	25	-	50	修士(工学)	工学関係	平成26年4月	デザイン学専攻	14	5	
									計	14	5	

【備考欄】 大学院設置基準第14条の特例を適用 工芸科学部 応用化学課程 [新規](入学定員169)(平成29年4月事前伺い予定) 生体分子応用化学課程 [廃止](入学定員 51)(平成30年4月学生募集停止) 高分子機能工学課程 [廃止](入学定員 51)(平成30年4月学生募集停止) 物質工学課程 [廃止](入学定員 67)(平成30年4月学生募集停止) デザイン・建築学課程 [新規](入学定員156)(平成29年4月事前伺い予定) デザイン・建築学課程 [廃止](入学定員116)(平成30年4月学生募集停止) デザイン経営工学課程 [廃止](入学定員 40)(平成30年4月学生募集停止)
--

教育課程等の概要(事前伺い)

(工芸科学研究科デザイン学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻共通科目	数学系	数理応用演習		1		○									兼4 ※演習
		数理科学特論Ⅰ(集合・代数)	1・2前	2		○									兼3
		数理科学特論Ⅱ(変分法・関数解析・数値解析)	1・2前	2		○									兼3
		数理科学特論Ⅲ(力学系・マルコフ連鎖)	1・2前	2		○									兼4
		数理応用代数	1・2後	2		○									兼1
		数理応用幾何	1・2後	2		○									兼1
		数理応用解析	1・2後	2		○									兼1
		数理応用統計	1・2後	2		○									兼1
		代数学セミナー	1・2前	2		○									兼2 ※演習
		幾何学セミナー	1・2前	2		○									兼3 ※演習
		解析学セミナー	1・2前	2		○									兼2 ※演習
		確率論セミナー	1・2前	2		○									兼1 ※演習
		英語系	Academic Writing	1・2前・後		1		○							
書くための英文法総仕上げ	1・2前			1		○								兼1	
Presentation Strategies	1・2前・後			1		○								兼1	
Technical English	1・2前・後			1		○								兼1	
Business Communication	1・2前			2		○								兼1	
English for International Conferences	1・2前			1		○								兼1	
TOEIC受験集中対策	1・2前・後			1		○								兼2	
Media English: Listening, Reading and Discussion	1・2後			1		○								兼1	
Presentation English: Listening, Reading and Academic Reading	1・2前・後			1		○								兼2	
Content and Language Integrated LearningⅠ(文脈理解)	1・2後			1		○								兼1	
Content and Language Integrated LearningⅡ(異文化コミュニケーション)	1・2後			1		○								兼1	
Content and Language Integrated LearningⅢ(グループコミュニケーション)	1・2後		1		○								兼1		
高等教養セミナー系	高等教養セミナー1(科学と文明－現状と歴史)	1・2前		1		○								兼1	
	高等教養セミナー2(地球環境を考える)	1・2前		1		○								兼1	
	高等教養セミナー3(科学技術と倫理)	1・2後		1		○								兼1	
	高等教養セミナー4(視覚認識論)	1・2後		1		○								兼1	
	高等教養セミナー5(技術進歩と経済社会)	1・2後		1		○								兼1	
	高等教養セミナー6(科学技術と道德的問題)	1・2前		1		○								兼1	
	高等教養セミナー7(科学とメディア)	1・2後		1		○								兼1	
	高等教養セミナー8(日欧比較文化論)	1・2後		1		○								兼1	
	高等教養セミナー9(科学と宗教)	1・2前		1		○								兼1	
	高等教養セミナー10(西洋言語文化論)	1・2後		1		○								兼2	
	高等教養セミナー11(日本語を考える)	1・2後		1		○								兼2	
	高等教養セミナー12(東洋言語文化論)	1・2後		1		○								兼2	
	高等教養セミナー13(日本近代文学)	1・2前		1		○								兼1	

	高等教養セミナー14(戦後知識人論)	1・2前		1		○									兼1	
	高等教養セミナー15(テキストと社会)	1・2前		1		○									兼1	
	高等教養セミナー16(多文化社会論)	1・2前		1		○									兼1	
	高等教養セミナー17(教育と科学)	1・2前		1		○									兼1	
	高等教養講義	1・2後		1		○									兼7	
人文系	比較文学特論	1・2後		2		○									兼1	
	制作思想	1・2前		2		○									兼1	
	宗教文化論	1・2前		2		○									兼1	
	京の伝統工芸—知 美 技(課題解決セミナー1)	1・2前		2		○									兼3	※演習集中
	テックリーダー演習Ⅰ(起業工学)	1・2前		2		○									兼6	※演習
	テックリーダー演習Ⅱ(フィールドワーク)	1・2前		1			○								兼2	集中
自然科学系	環境化学特論	1・2後		2		○									兼1	
	生体行動科学特論	1・2前		2		○									兼2	
	バイオメカニクス特論	1・2後		2		○									兼3	
	「ものづくり」総合プロデュース論	1・2前		2		○		1							兼2	集中
インターンシップ系	インターンシップⅠ	1・2前		1			○	11	9	2	4	1				1週間
	インターンシップⅡ	1・2前		2			○	11	9	2	4	1				2週間
	グローバルインターンシップⅠ	1・2前		1			○								兼1	2週間
	グローバルインターンシップⅡ	1・2前		2			○								兼1	15日を超える期間
	アカデミックインターンシップ(国内)	1・2通		2			○								兼4	集中
	アカデミックインターンシップ(海外)	1・2通		2			○								兼1	集中
PBL系	グローバルイノベーションプログラムⅠ	1・2後		4			○	11	9	2	4	1			兼1	集中 デザイン学専攻は専門教育科目として開講
	グローバルイノベーションプログラムⅡ	1・2前		4			○	11	9	2	4	1			兼1	集中 デザイン学専攻は専門教育科目として開講
	実践プロセスデザインⅠ	1・2前		2			○								兼7	※演習・実習
	実践プロセスデザインⅡ	1・2後		3			○								兼5	※演習・実習 集中
KIT大学院科目	プロジェクト・マネジメント	1・2後		2			○								兼1	
	知的財産権論	1・2前		2			○								兼2	集中
	産業創出論	1・2前		2			○								兼4	集中
	伝統産業特論Ⅰ	1・2前		2			○								兼8	※演習集中
	伝統産業特論Ⅱ	1・2後		2			○								兼8	※演習集中
	ジェロントロジー入門(超高齢社会のユニバーサルデザイン)	1・2後		2			○								兼3	集中
	繊維系合同研修	1前		2			○								兼1	集中
	繊維系資格概論	1・2後		2			○								兼1	集中
	繊維・ファイバー工学特論Ⅰ(欧州事情)	1・2前		1			○								兼1	集中
	繊維・ファイバー工学特論Ⅱ(欧州事情)	1・2後		1			○								兼1	集中
	繊維・ファイバー工学特論Ⅲ(アジア事情)	1・2前		1			○								兼1	集中
	繊維・ファイバー工学特論Ⅳ(アジア事情)	1・2後		1			○								兼1	集中
繊維基礎科学(英語版e-Learning科目)	1・2後		2			○								兼1		
小計(76科目)	—	0	119	0	—	—	11	9	2	4	1	兼91	—			

専門教育科目	デザイン系科目	伝統文化とデザイン	1・2前	2	○			2										
		プロダクトデザイン論	1・2前	2	○			1	1									
		ワークスペース計画論	1・2前	2	○			1										
		建築史	1・2前	2	○										兼5	建築学専攻との共通科目		
		都市史	1・2前	2	○										兼5	建築学専攻との共通科目		
		ヴィジュアルデザイン論	1・2後	2	○					1		1						
		インテリアデザイン論	1・2後	2	○				1			1						
		アドバンストコンピュータショナルデザイン	1・2後	2	○							1						
	共創デザインアプローチ	1・2後	2	○				1									兼1	
	テクノロジー系科目	色彩工学	1・2前	2	○			1			1							
		テレコミュニケーション技術論	1・2前	2	○			1										
		生活空間環境論	1・2前	2	○			1										
		デザイン材料論	1・2前	2	○													兼1
		技術革新とデザイン	1・2後	2	○						2							
	マネジメント系科目	製品デザインマネジメント	1・2前	2	○				1									
		企業経営管理論	1・2前	2	○													兼1 集中
		グローバル・マーケット研究	1・2前	2	○													兼1
		製品創成産業論	1・2前	2	○			1										
		国際産業構造研究	1・2後	2	○						1							
	デザインマーケティング	1・2後	2	○													兼1	
	シミュレーション系科目	デザイン論特論	1・2前	2	○				1									
展示デザイン論		1・2前	2	○				3										
感性論特論		1・2後	2	○				1										
PBL系科目	デザイン系	プロジェクトデザインA	1前	4	○			10	6	1	4	2					集中	
		プロジェクトデザインB	1後	4	○			10	6	1	4	2					集中	
		グローバルイノベーションプログラムI	1・2後	4	○			11	9	2	4	1			兼1	集中 他専攻は専攻共通科目として開講		
		グローバルイノベーションプログラムII	1・2前	4	○			11	9	2	4	1			兼1	集中 他専攻は専攻共通科目として開講		
		フィジカルインタラクティブデザイン	1・2前	4	○			2				1			兼3	※演習		
		ソーシャルインタラクティブデザイン	1・2後	4	○			1	2						兼3	※演習		
		デザイン学特別演習A	1・2前	1	○			11	9	2	4	2					集中	
		デザイン学特別演習B	1・2後	1	○			11	9	2	4	2					集中	
	キュレーション系	価値創造学演習I	1通	4	○			1	3	1								
		価値創造学演習II	2通	4	○			1	3	1								
		博物館資料実習I	1前	2	○			1	3	1								
		博物館資料実習II	1後	2	○			1	3	1								
	博物館資料実習III	2前	2	○			1	3	1									
	博物館資料実習IV	2後	2	○			1	3	1									
インターンシップ科目	デザイン学実務実習	1・2通	2	○			10	6	1	4							集中	
	価値創造学実務実習	1・2通	2	○			1	3	1								集中	
	デザイン学インターンシップI	1通	6	○			11	9	2	4								
	デザイン学インターンシップII	2通	6	○			11	9	2	4								
特別講義科	デザイン学特別講義A	1・2前	1	○			11	9	2	4						兼5	集中、オムニバス	
	デザイン学特別講義B	1・2後	1	○			11	9	2	4						兼5	集中、オムニバス	
	ソーシャルインタラクティブデザイン事例研究I（社会デザインマネジメント）	1・2通	2	○												兼3	集中、オムニバス	

目	ソーシャルインタラクシオンデザイン事例研究Ⅱ（生活製品・空間マネジメント）	1・2通		2		○									兼3	集中、オムニバス
研究指導	特別研究（特定課題制作又は論文）								11	9	2	4				
	小計（46科目）	—	16	98	0	—			11	9	2	4	2		兼38	—
	合計（122科目）	—	16	217	0	—			11	9	2	4	2		兼128	—
学位又は称号	修士(工学)	学位又は学科の分野		工学関係												

I. 設置の趣旨・必要性

【趣旨・目的】

第4次産業革命に伴う人工知能・ビッグデータ等を活用した産業構造の変化等を見据え、時代に応じて変化する社会的な課題に対し、「デザイン思考」の展開によって新たなサービスの創造や社会実装化を行える人材を育成することを目的として、既存のデザイン学専攻とデザイン経営工学専攻を統合し、新たなデザイン学専攻を設置する。

【社会的背景】

現在、社会のデザインへの期待は、「意匠（モノの造形）」に留まらず、プロダクトやグラフィック、空間といった領域を超え、第4次産業革命に伴う人工知能、ビッグデータ、IoTなどを活用した産業構造の変化によりもたらされる「新たなサービス」も含む「モノ・コト」の有り様（デザイン）にまで展開してきており、「デザインの多様化」が進んでいる。また、社会的課題の解決手段としてもデザイナーの能力が求められる機会が増えているなど、世界的にデザインへの専門家の需要が高まっていると同時に、デザイナーに対して多様な社会的ニーズに対応できる能力が求められるようになってきている。我が国においても、国際競争力強化の観点から、既に様々なデザイン政策に関する取組が行われており、例えば経済産業省においては、平成19年に策定された「感性価値創造イニシアティブ」で感性価値を生み出す人材育成の必要性を提唱するとともに、同省が進める「地方発クールジャパン」の取組においては「モノのデザイン」から「コトのデザイン」への転換による地方創生を推進しているほか、同省クリエイティブ産業課の政策立案において「デザイン思考」を実践するなどしている。

【これまでの取組】

本学のデザイン教育は、明治35年の京都高等工芸学校図案科に始まり、昭和24年の京都工芸繊維大学発足時に工芸学部建築工芸学科が設置され、その後、意匠工芸学科及び住環境学科、建築学科、工芸学研究科意匠工芸学専攻及び住環境学専攻等の設置、工芸学部造形工芸学科、工芸科学研究科造形工学専攻への統合等の変遷を経て、現在の工芸科学部デザイン・建築学課程及びデザイン経営工学課程と工芸科学研究科デザイン学専攻及びデザイン経営工学専攻に至っている。

平成10年と平成14年にそれぞれ新設されたデザイン経営工学課程及びデザイン経営工学専攻は、「意匠（モノの造形）」に留まらず、製品クオリティの根幹となる「工学」と、製品やサービスの社会実装実現の根幹となる「経営（ビジネス）」の二つの分野を取り込んだ広い意味の「デザイン」教育に取り組み、「コト」化が進む社会の需要（デザイン成果の社会実装・強化）に応えるべく、早い時期から「デザイン思考」を実践できる人材の育成を展開してきた。

他方、平成26年にデザイン・建築分野の強みや特色を対外的に明らかにする観点から、学部課程の名称を造形工学課程からデザイン・建築学課程に変更するとともに、博士前期課程においては、建築設計学専攻、造形工学専攻、デザイン科学専攻の3専攻から、「建築」及び「デザイン」を標榜する2専攻（建築学専攻及びデザイン学専攻）に再編し、併せて博士後期課程においても造形科学専攻を建築学専攻およびデザイン学専攻に改組した。これは、従来のプロダクトやグラフィック、空間の「意匠（モノの造形）」を深掘りしてきた教育から、急速な地球環境および社会構造の変化、情報技術革新といった社会状況に対応する革新的解決策として、モノ・コトをデザインできる人材の養成を狙いとしたものであり、社会的課題に対応したPBL教育を主体とした実践教育の強化によって「デザイン思考」教育への転換を図ったものである。

また、デザイン学専攻の設置と時を同じくして、デザイン学専攻、建築学専攻を中心とした全学組織「KYOTO Design Lab」を設置し、海外の大学のユニット誘致を中心とした国際連携プロジェクトに多くの学生が参加し、スタンフォード大学、ロイヤル・カレッジ・オブ・アート、スイス連邦工科大学チューリッヒ校、シンガポール国立大学等との連携によって世界の実践的先端教育を肌で知る機会となったと同時に、それらの海外先端教育プログラムが展開する「デザイン思考」による人材育成をベンチマークとして、更なる本学における教育研究プログラムの発展的展開の課題や可能性が明らかとなっていった。

【現状の課題と設置（改組）の必要性】

今後、人工知能、ビッグデータ、IoT等による第4次産業革命に対応していくためには、新たなサービス価値の創出あるいはサービスを産み出すビジネスやコミュニティの在り方までを視野に入れた人材育成が不可欠となってくる。そうした中で、本学における、①社会的課題へ革新的解決策を提供するためのモノ・コトづくりができる人材の育成を目指して「デザイン思考」教育を推し進めてきたデザイン分野（デザイン・建築学課程、デザイン学専攻）と②デザイン成果の社会実装化を強化させることができる人材の育成を目指して「デザイン思考」教育に取り組んできたデザイン経営工学分野（デザイン経営工学課程・専攻）は、「デザイン思考」による教育展開を目指している点で大きな方向性は同一であり、これまで、それぞれの視点で展開してきたプログラムは、互いに補完できる関係性であることが明らかとなっていった。

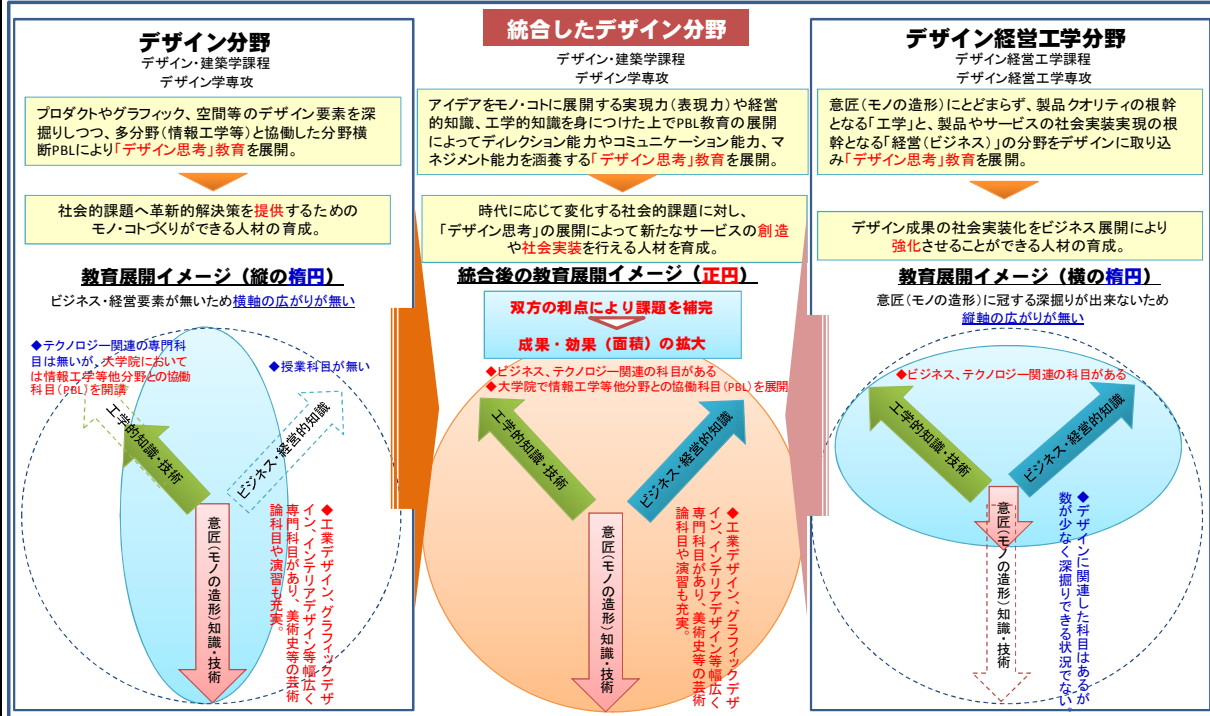
具体的には、本学のデザイン分野（デザイン・建築学課程、デザイン学専攻）の教育においては、プロダクトやグラフィック、空間等のデザイン要素を深掘りしつつ、他分野（サイエンス、機械、情報、バイオテクノロジー等）と協働した分野横断PBLにより「デザイン思考」教育を展開し、多くのデザイナーを輩出してきたが、そこで新たに産み出されたアイデア・プロダクトを社会実装し強化・持続させるためのビジネス展開に関する教育プログラムが無かった。

一方、本学のデザイン経営工学分野（デザイン経営工学課程・専攻）においては、「意匠（モノの造形）」に留まらず、製品クオリティの根幹となる「工学」、製品やサービスの社会実装実現の根幹となる「経営（ビジネス）」の要素を取り込んだ広い意味の「デザイン」教育に取り組むデザイナー、プロデューサー、起業家などを輩出してきたが、プロダクトやグラフィック、空間の「意匠（モノの造形）」の部分に関しては、深掘りできる状況にはなく、デザイン分野と比して教育プログラムが少ない状況にあった。

このような状況を踏まえ、今後、新たなサービス価値の創出あるいはサービスを産み出すビジネスやコミュニティの在り方までを視野に入れたデザイン教育が重要となってくることを見据えると、社会的課題へ革新的解決策を提供するためのモノ・コトづくりができる人材の育成を目指して「デザイン思考」教育を推し進めてきたデザイン分野と、デザイン成果の社会実装化を強化させることができる人材の育成を目指して「デザイン思考」教育を推し進めてきたデザイン経営工学分野を合体し、両分野の展開してきた教育カリキュラムを融合させることが不可欠である。

このため、デザイン学とデザイン経営工学における壁を取り払い、学部課程及び大学院専攻それぞれにおいて組織の統合を行うことにより、両者が異なるアプローチで展開してきた「デザイン思考」による人材育成プログラムを統合し、デザイン・ビジネス・テクノロジーを融合した一体的なモノ・コトのデザイン思考教育を展開するための体制を整備する必要がある。

【図】デザイン教育の統合イメージ



デザイン思考: 社会の潜在的ニーズ(課題)を発掘し、様々な専門領域の融合によってアイデアをプロトタイプ化することによって視覚化し、グループで試作・検証を繰り返すことによってモノ・コトづくりを創造的に展開する手法

【人材育成の目標】

既設専攻であるデザイン学、デザイン経営工学それぞれの専攻では、「デザイン」という共通点を持ちつつ、デザイン学の分野においてはアイデアの実現力(表現力)、デザイン経営工学の分野においては経営感覚、工学的知識・技術といったそれぞれの人材育成の特性を有している。デザイン学専攻とデザイン経営工学専攻を、新しいデザイン学専攻として統合改組することで、時代に応じて変化する社会的課題に対し、モノの造形に留まらず、デザイン思考の展開によって新たなサービスの創造と社会実装化を行える能力を有する人材を育成する教育を実践する。

【養成人材像】

様々な社会的課題に対応できる俯瞰的視野を持ち、次のような能力を有するデザインの専門家を養成する。

1. **新しい価値を創造する能力**
 - ・アイデアを的確に表現できる能力
 - ・デザインとビジネス、テクノロジーの専門的知識を融合することで製品やサービスを革新する能力
2. **異分野間を連携・横断する能力**
 - ・異分野の専門家集団の中で、課題発見、リサーチ、アイデア発想からその具現化へのプロセスを主導できるディレクション能力及びマネジメント能力
 - ・グローバルとローカル双方のフィールドで活動するために必要な課題発見能力、ファシリテーション能力
3. **新しい環境(場)を創造する能力**
 - ・様々な社会課題に対し革新的な解決策を導くことのできる優れた発想力
 - ・社会実装に必要なものづくりの知識とビジネスマインド

【専攻名称】

社会の動きによって「デザイン」の概念は変化し、そうした社会における個別具体の事柄に対し、様々な「デザイン」の呼称(プロダクトデザイン、グラフィックデザイン等)が存在する。しかしながら本学が組織名称において呼称する「デザイン」は、それらを全て包含した広い意味での「デザイン」を指し、個別具体の事柄で用いられる狭義の「デザイン」ではない。

この考え方のもと、今回改組における「デザイン学専攻」と「デザイン経営工学専攻」との統合にあっても、全ての意味合いを包含した「デザイン」の名の下に統合することとしている。これらのことから、改組後の名称は、既設のデザイン学専攻の名称を継承するものとする。

【人材養成の緊急性(学部課程と博士前期課程専攻との同時設置)】

前述のとおり、現在我が国においては、第4次産業革命に伴う人工知能、ビッグデータ、IoTなどを活用した産業構造の変化によりもたらされる世界的な転換に対応することが望まれているが、先進各国と比してその対応が立ち後れているとともに、今後、IT人材を中心として人材の不足が予測され、人材の育成が喫緊の課題となっている。こうした構造変動の中で、世界的に、ユーザーニーズを的確に捉え、IT活用等により業種の垣根を越えて製品・サービスを産み出すデザイン活用企業が増えている状況にある。我が国においても一部企業においてデザイン活用の動きはあるが、全体としては普及が遅れていると言われている。このような状況に対するために、新たなビジネスを生み出すにあたり、上流工程、すなわち、経営・商品企画、マーケティング、R&D等、新たなビジネスを担う中核に「デザイン」の要素に通じた人材が必要であり、今後、第4次産業革命を通して増加を目指す上流工程人材は少なくとも96万人必要であるといわれている。(※平成29年2月「第4次産業革命人材育成推進会議(第2回)経済産業省提出資料」、平成28年4月「第4次産業革命をリードする日本の戦略～産業構造審議会 中間整理」)

AI等技術革新・データを活かした新たな需要の発掘・獲得、すなわち、革新的なサービス・製品の創出を展開できる「デザイン人材」の育成は、IT等における専門技術者と同じく、急務であるといえる。こうした社会が希求する人材を養成していく上で、本改組構想はこれに十分合致するものであり、人材育成の緊急性も鑑み、学部課程、博士前期課程専攻を同時設置することとする。

カリキュラムは、学内進学において本学独自の学部4年次を修士初年次と位置づける学部・大学院一貫教育「3×3制度」による6年一貫の育成プログラムを活用して4年次に大学院科目を受講した学生の受入を念頭におきつつ、学外からの受入学生にも対応する。

II. 教育課程編成の考え方・特色

【教育課程の基本的な考え方】

今回の改組にあたっては、デザイン分野とデザイン経営工学分野を統合し、「デザイン思考」により社会課題を解決する能力を身につけるためのデザイン教育を展開するカリキュラムとしてデザイン、ビジネス、テクノロジーに関する専門教育科目群及び、産業界、自治体、海外研究機関等との連携によるPBL科目で構成する科目群等を置く。

専門教育科目群は、デザイン系科目、テクノロジー系科目、マネジメント系科目、キュレーション系科目の4系統で分類し、広い範囲でのデザイン系人材（デザイナー、プロデューサー、マーケッター、プランナー、ファシリテーター、キュレーター等）に必要な専門知識が獲得できるプログラムを体系的に設定する。

PBL系科目群では、民間企業からテーマ提供を受け、学生がチームを編成し、教員、企業人等との協働によってプロジェクトを遂行する形式の科目や、博物館における実際の展示の企画立案、実際の展示までを実践する形式の科目を設定するなど様々な状況や学生の進路に応じた実践経験を積むことができる環境を整備する。

また、専攻共通科目にもPBL科目を設定することによって、全ての専攻の学生がPBLに参加し、様々な分野の人材が参画する横断的プロジェクトを編成できる仕組みも構築する。

また、新専攻には当面旧カリキュラムの学部学生が入学することになるが、経過期間においては、学部4年次を実質的な修士初年次（MO（エムゼロ））とする本学独自の「3×3制度」を活用し、学部4年次において大学院科目の履修を可能とするとともに、既設のデザイン・建築学課程の学生には既設のデザイン経営工学課程のテクノロジーやビジネスに関する科目の履修を奨励し、既設のデザイン経営工学課程の学生には既設のデザイン・建築学課程のデザイン論に関する科目、美術史・芸術論に関する科目の履修を奨励することで、新設するデザイン学専攻の科目の接続に必要な教育を行う。

【教育方法の工夫・特色】

前述のとおり、デザイン分野、デザイン経営工学分野を統合した「デザイン思考」によって社会課題を解決する能力を身につけるためのデザイン教育を展開するべく、専門教育科目をデザイン系科目、テクノロジー系科目、マネジメント系科目、キュレーション系科目、PBL系科目等に分類し、学生が体系的に専門知識、実践能力を身につける環境を整備する。

とりわけPBL科目においては、企業や博物館現場等との連携による必修科目「プロジェクトデザインA、B」、「価値創造学実習I、II」によって、デザイン学専攻全ての学生に対して外部と連携した実践教育を提供する仕組みとなっている。また、選択科目として、KYOTO Design Labにおける海外の大学からの誘致ユニットと協働してプロジェクトを実施する「デザイン学特別演習A、B」、情報工学分野の専攻との協働プロジェクトを実施する「フィジカルインタラクションデザイン」及び「ソーシャルインタラクションデザイン」、博士前期課程の学生全員を履修対象とした専攻横断科目「グローバルイノベーションプログラムI、II」など、プロジェクトベースの実践教育に重点を置いたカリキュラムを学生に提供できる体制を構築する。

【カリキュラム概要】

学生に「デザイン思考」によるデザインの実践能力を身につけさせることを目的に、高度な専門性と分野横断性、社会的課題への深いコミットメントと具体的実装提案・検証までを含むそれぞれに特長を持った専門教育科目、PBL授業群等を整備する。

◆PBL系科目

（デザイン系PBL）

企業や各種団体など外部の組織から提供される現実の課題に専攻内学生の混合チームで取り組み、多様な関係者との連携により様々な社会的課題を解決する方法を実践的に学ぶための科目である「プロジェクトデザインA、B」はPBLの核となる科目であり、これを必修とする（3×3制度によるMO生の履修可能）。

（選択PBL）

「フィジカルインタラクションデザイン」、「ソーシャルインタラクションデザイン」では、デザイン学専攻と情報工学専攻の学生が分野横断型のチームで課題に取り組み、「グローバルイノベーションプログラムI、II」は、国内外の企業から提供される課題に海外大学の学生との混合チームで取り組む全学横断の国際的な分野横断型PBLであり、全ての専攻の学生が受講できるよう、他専攻の学生に対しては専攻共通科目として開講し、本学教員と海外大学の教員が指導し、課題提供元の企業のサポートを受ける（海外大学のカリキュラムスケジュールに合わせて、Iを後期、IIを前期に開講する）。

「デザイン学特別演習A、B」は、KYOTO Design Labが海外から招聘する著名な研究者やデザイナーが実施するワークショップへの参加によるPBL科目であり、学生は、KYOTO Design Labから提供されるプログラムの中から短期集中型のプログラムを2つ以上受講する。「アドバンストデザインプロジェクトI、II」は、デザイン（意匠）、ビジネス、テクノロジーそれぞれの研究分野のテーマを深掘りしたテーマ設定（企業との受託・共同研究への参画）によるPBLを実施する。

これら様々なPBLを選択科目として設定することで、必修科目である「プロジェクトデザインA、B」と合わせて、国際性、多様性、専門性に通じる実践能力を学生に習得させる。

（キュレーション系PBL）

学芸員を志望する学生に対しては、美術、建築、デザインなどさまざまなジャンルの作品、作者についての討議、プレゼンテーションによる実践演習である「価値創造学演習I、II」を必修科目とし、実際の博物館施設における企画展示を通じて、学芸員の業務を理解し、実践的能力を養う「博物館資料実習I、II、III、IV」を選択科目として設定する。

【図】PBL科目概要図

デザイン系PBL:デザイン・ビジネス・テクノロジーを融合した実践力を習得

プロジェクトデザインA

1年次前後期配当(必修)
企業等からの課題提供を受けて実施する産学連携PBL(他専攻教員、企業人による指導有)
プロジェクトデザインAは学部4年次生(M0)の履修可能

プロジェクトデザインB

選択PBL:国際性・多様性・専門性に係る実践力を習得

グローバルイノベーションプログラム I

1、2年次前後期配当(選択必修)
複数の国の複数の大学が選成チームを組む国際連携PBL。全ての専攻の学生が履修可能で、他専攻の学生は専攻共通科目として履修

グローバルイノベーションプログラム II

デザイン学特別演習A

1、2年次前後期配当(選択必修)
デザイン(意匠)、ビジネス、テクノロジーそれぞれの研究分野のテーマを深掘したテーマ設定によるPBL(外国人研究者との協働)
学部4年次生(M0)の履修可能

デザイン学特別演習B

ソーシャルインタラクティブデザイン

1、2年次前後期配当(選択必修)
他専攻(情報工学専攻)の学生と実施する分野横断PBL

フィジカルインタラクティブデザイン

アドバンスデザインプロジェクト I

I:1年次通年 II:2年次通年(選択必修)
デザイン(意匠)、ビジネス、テクノロジーそれぞれの研究分野のテーマを深掘したテーマ設定によるPBL
企業との受託・共同研究事業へ参加

アドバンスデザインプロジェクト II

キュレーター系PBL:学芸員志望学生対象

価値創造学演習 I

I:1年次通年 II:2年次通年(必修)
美術、建築、デザインなどさまざまなジャンルの作品、作者についての討議、プレゼンテーションによる実践演習

価値創造学演習 II

博物館資料実習 I、II

I、II:1年次前後期配当(選択必修)
III、IV:2年次前後期配当(選択必修)
実際の博物館施設における企画展示を通じて、学芸員の業務を理解し、実践的能力を養う

博物館資料実習 III、IV

◆デザイン系科目

広範囲なデザイン分野における必要な知識を身につけるため、様々な領域での諸問題や先端事例を学ぶ目的で、「プロダクトデザイン論」、「ヴィジュアルデザイン論」、「インテリアデザイン論」、「ワークスペース計画論」を配し、地域・文化とデザインの結びつきを学ぶために、「伝統文化とデザイン」、「建築史」、「都市史」を配置する。「アドバンスコンピューターショナルデザイン」、「共創デザインアプローチ」では、デザイン実践現場における創造のための新たな技術と方法論を学ぶ。

◆テクノロジー系科目

デザインにかかわるエンジニアリング応用技術と新たな展開のための知識を習得させる。具体的には、感性価値を生み出すためのエンジニアリング技術、また、その評価技術に関連する科目を配置し、「技術革新とデザイン」ではデザインイノベーションに関連する技術を、「テレコミュニケーション技術論」ではデザインにかかわるITやコンピュータ技術を、「デザイン材料論」ではデザインの原材料にかかわる知識とその応用を、そして、「生活空間環境論」と「色彩工学」ではデザインを実際に展開した際の応用評価技術を学ぶ。

◆マネジメント系科目

デザイン成果を社会実装化する専門家の養成に向け、まず、社会課題の発見力を向上させるため、「国際産業構造研究」、「グローバル・マーケット研究」や「デザインマーケティング」において、ユーザーなど社会とのかかわりを探求する。また、「企業経営管理論」を通して企業経営についての知識を深めるとともに、「製品創成産業論」を通して事業戦略の実例などから戦略論を深め、「製品デザインマネジメント」を通して企業経営においてデザインを活用する方法を習得する。さらに、これらマネジメント系科目とPBL系科目とを連動させることで、社会課題を発見し、ビジネス手法を活用した持続性のある解決策をデザインできる能力を向上させる。これらにより、成果を社会実装する専門家としての素養を高められる。

◆キュレーション系科目

キュレーション系科目においては、「考えたこと」をいかに「伝える」という課題を研究することになる。デザインや芸術の作品、作家の価値を従来型の論文形式で発表するだけでなく、展覧会の形式で社会に向け発信するために必要な知識と方法を習得させる。具体的には、「デザイン論特論」では、近代以降のデザインと社会の関係について議論する中で、デザインを歴史的な視座から評価するために必要な思考方法を養う。「展示デザイン論」では、デザインを価値づけるための各種資料を適切に編集し、展示の形式で発信する方法を学ぶ。「感性論特論」では、展覧会等におけるデザインや芸術の受容のされ方を考察、分析するために必要な、ヒトの感性に関する知識を習得する。

◆インターンシップ科目

学外で行われるインターンシップ等での実績を単位化する。「デザイン学実務実習」、「価値創造学実務実習」では、専攻で指定した企業・研究機関のインターンシップ、または専攻の教員が推薦あるいは学生自身がエントリーした企業インターンシップ等への参加を前提とし、受入先企業・機関から受け取った「評価報告書」と学生本人作成の「実務実習レポート」の内容を踏まえ単位化を行う。大学院で培った能力を現場レベルで活かし、その経験が将来計画の指針となることを目指す。また「デザイン学インターンシップ I、II」は、社会人特別選抜で入学した学生向けの授業であり、企業等の現場において存在する課題をデザインの知識やデザインの思考によって洗い出し、各種の問題を系統的に分析し、仮説的方法論の実験的試行を行い現実的な解決案に近づけるプロセスを経て、レポートの内容を踏まえ単位を付与する。

◆特別講義科目

学外より外部講師を招聘して、今日的課題に取り組む多様な実践例を学ぶ。「デザイン学特別講義 A、B」では、毎回異なる講師を招き各実践におけるデザイン思想やデザイン方法について学ぶ。「ソーシャルインタラクティブデザイン事例研究 I、II」では外部講師による授業を行い、テーマ毎の連続講義や短期型の演習を通じて、現代デザインの実践手法を多角的に学ぶ。

◆研究指導

特別研究においては、特定課題制作もしくは論文の選択肢を設け、それぞれに応じた適切な研究指導を行う。

(特定課題制作)

特定課題制作は、PBL系科目をはじめとする専門教育科目によりデザイン・ビジネス・テクノロジーが融合した実践的デザインの基礎を徹底して身につけた上で開始される。制作にあたっては、学生各自がプロジェクト実行計画を立案し、各自が発見する社会的課題とデザインによる社会変革の可能性をゼミ形式により徹底して議論する。この成果は、2年次冒頭に行うテーマ審査会において評価される。

テーマ審査会でのフィードバックをもとに、さらなる調査あるいは実験を行い、2年次秋に行う中間審査において、設定テーマに対する中間解としてのデザイン試作が評価される。中間審査の後は、実生活現場や市場等における検証と試作の繰り返しを経た上で提案デザインを完成させ、調査や実験も含むデザイン過程の記録・記述と、成果の社会的影響等の考察を論文形式の報告書にまとめる。

最終作品と報告書は、学内最終審査会において専攻教員全員による評価を受け、審査を通過した作品は、学外における一般公開展示とともに、国内外の著名デザイナー、デザイン研究者を招聘する公開審査・最終試験を経て、修士作品として認められる。

(論文)

論文についても特定課題制作と同様に、PBL系科目をはじめとする専門科目によりデザイン・ビジネス・テクノロジーが融合した実践的デザインの基礎を徹底して身につけた上で開始される。その過程の中で発見される社会的な結びつきを持つ課題に関してのディスカッション及び徹底した既往研究調査をゼミ形式により徹底して議論する。

また、調査分析評価手法に関しても、この段階までの様々な演習等で身につけた手法をさらに発展させ、解析、分析、評価の段階では、デザイン系、経営系、工学系の指導教員と徹底したディスカッションを行い、探索的な分析により潜在的な知見の発見に繋げる。

2年次に修士論文の中間発表を行い、様々な視点からの指摘を得て、さらに課題を深めて結論の導出に至る。最終的には特定課題制作と同様に外部審査員を含む修士論文審査・最終試験を経て、修士論文として認められる。

一方、学芸員を志望する学生には、展示という行為を通して美術工芸資料の新たな価値を創造することを目的として、美術工芸資料館において、収蔵資料を用いた展示の企画を立案し、それについて教員とディスカッションを行うとともに、美術工芸資料の材質的特質とそれを取り扱う方法についての指導も行い、実践的な展示能力を涵養する。それと同時に、近隣で開催される各種展覧会を見学しレポートをまとめ、その内容について教員と討論することにより、展覧会についての批評能力を養う。最終的にまとめる論文は、展覧会企画及び展示カタログを想定した形式での論文も含まれ、外部審査員を含む修士論文審査・最終試験を経て、修士論文として認められる。

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
必修科目8単位（「プロジェクトデザインA、B」または「価値創造学演習Ⅰ、Ⅱ」）を修得し、所属専攻の専門教育科目の選択科目から22単位以上修得した上で、総計30単位以上修得すること。 また、必要な研究指導を受けた上、修士論文または特定課題制作の審査及び最終試験に合格すること。	1 学年の学期区分	2 学期
	1 学期の授業期間	15週
	1 時限の授業時間	90分

【既設専攻教育課程表：デザイン経営工学専攻】

教育課程等の概要（事前伺い）

（工芸科学研究科デザイン経営工学専攻）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻共通科目 数学系	数理応用演習	1・2前		1		○									兼4 ※演習
	数理科学特論 I	1・2前		2		○									兼3
	数理科学特論 II	1・2前		2		○									兼3
	数理科学特論 III	1・2前		2		○									兼4
	数理応用代数	1・2後		2		○									兼1
	数理応用幾何	1・2後		2		○									兼1
	数理応用解析	1・2後		2		○									兼1
	数理応用統計	1・2後		2		○									兼1
	代数学セミナー	1・2前		2		○									兼2 ※演習
	幾何学セミナー	1・2前		2		○									兼3 ※演習
	解析学セミナー	1・2前		2		○									兼2 ※演習
確率論セミナー	1・2前		2		○									兼1 ※演習	
英語系	Academic Writing	1・2前・後		1		○									兼1
	書くための英文法総仕上げ	1・2前		1		○									兼1
	Presentation Strategies	1・2前・後		1		○									兼1
	Technical English	1・2前・後		1		○									兼1
	Business Communication	1・2前		2		○									兼1
	English for International Conferences	1・2前		1		○									兼1
	TOEIC受験集中対策	1・2前・後		1		○									兼2
	Media English: Listening, Reading and Discussion	1・2後		1		○									兼1
	Presentation English: Listening, Reading and Academic Reading	1・2前		1		○									兼1
	Content and Language Integrated Learning I	1・2前・後		1		○									兼2
	Content and Language Integrated Learning II	1・2後		1		○									兼1
Content and Language Integrated Learning III	1・2後		1		○									兼1	
高等教養セミナー系	高等教養セミナー1	1・2前		1		○									兼1
	高等教養セミナー2	1・2前		1		○									兼1
	高等教養セミナー3	1・2後		1		○									兼1
	高等教養セミナー4	1・2後		1		○									兼1
	高等教養セミナー5	1・2後		1		○									兼1
	高等教養セミナー6	1・2後		1		○									兼1
	高等教養セミナー7	1・2前		1		○									兼1
	高等教養セミナー8	1・2後		1		○									兼1
	高等教養セミナー9	1・2後		1		○									兼1
	高等教養セミナー10	1・2前		1		○									兼1
	高等教養セミナー11	1・2後		1		○									兼2
	高等教養セミナー12	1・2後		1		○									兼2
	高等教養セミナー13	1・2後		1		○									兼2
	高等教養セミナー14	1・2前		1		○									兼1
	高等教養セミナー15	1・2前		1		○									兼1
	高等教養セミナー16	1・2前		1		○									兼1
	高等教養セミナー17	1・2前		1		○									兼1
高等教養講義	1・2後		1		○									兼7	
比較文学特論	1・2後		2		○									兼1	

【既設専攻教育課程表：デザイン経営工学専攻】

教育課程等の概要（事前伺い）

（工芸科学研究科デザイン経営工学専攻）

人文系	制作思想	1・2前	2	○									兼1
	宗教文化論	1・2前	2	○									兼1
	京の伝統工芸—知 美 技(課題解決セミナー1)	1・2前	2	○									兼3 ※演習集中
	テックリーダー演習I：起業工学	1・2前	2	○									兼6 ※演習
	テックリーダー演習II	1・2前	1		○								兼2 集中
自然科学系	環境化学特論	1・2後	2	○									兼1
	生体行動科学特論	1・2前	2	○									兼2
	バイオメカニクス特論	1・2後	2	○									兼3
	「ものづくり」総合プロデュース論	1・2前	2	○		1							兼2 集中
インターンシップ系	インターンシップ I	1・2前	1		○		6	3	1	2	1		
	インターンシップ II	1・2前	2		○		6	3	1	2	1		
	グローバルインターンシップ I	1・2前	1		○								兼1
	グローバルインターンシップ II	1・2前	2		○								兼1
	アカデミックインターンシップ (国内)	1・2通	2			○							兼4 集中
	アカデミックインターンシップ (海外)	1・2通	2			○							兼1 集中
PBL系	ME310: グローバルイノベーションプログラム I	1・2後	4		○		6	3	1	2	1		兼1 集中 デザイン学専攻は 専門教育 科目として 開講
	ME310: グローバルイノベーションプログラム II	1・2前	4		○		6	3	1	2	1		兼1 集中 デザイン学専攻は 専門教育 科目として 開講
	実践プロセスデザイン I	1・2前	2		○								兼7 ※演習・ 実習
	実践プロセスデザイン II	1・2後	3		○								兼5 ※演習・ 実習 集中
KIT大学院科目	プロジェクト・マネジメント	1・2後	2		○								兼1
	IGP 知的財産権論	1・2前	2		○								兼2 集中
	産業創出論	1・2前	2		○								兼4 集中
	伝統産業特論 I	1・2前	2		○								兼8 ※演習 集中
	伝統産業特論 II	1・2後	2		○								兼8 ※演習 集中
	ジェロントロジー入門 (超高齢社会のユニバーサルデザイン)	1・2後	2		○								兼3 集中
	繊維系合同研修	1前	2			○							兼1 集中
	繊維系資格概論	1・2後	2		○								兼1 集中
	繊維・ファイバー工学特論 I	1・2通	1		○								兼1 集中
	繊維・ファイバー工学特論 II	1・2通	1		○								兼1 集中
	繊維・ファイバー工学特論 III	1・2通	1		○								兼1 集中
繊維・ファイバー工学特論 IV	1・2通	1		○								兼1 集中	

【既設専攻教育課程表：デザイン経営工学専攻】

教育課程等の概要（事前伺い）													
（工芸科学研究科デザイン経営工学専攻）													
	繊維基礎科学（英語版e-Learning科目）	1・2後		2		○							兼1
	小計（76科目）	—	0	119	0	—		6	3	1	2	1	兼91 —
専門教育科目	製品デザインマネジメント	1・2前		2		○			1				兼4 集中
	ファシリティデザインマネジメント	1・2後		2		○			1				
	デザインマネジメント事例研究	1・2後		2		○							兼4 集中
	国際産業構造研究	1・2後		2		○			1				
	企業経営管理論	1・2前		2		○							兼1 集中
	グローバル・マーケット研究	1・2前		2		○							兼1 集中
	テレコミュニケーション技術論	1・2前		2		○		1					
	資源・エネルギー論	1・2前		2		○							兼1 集中
	デザイン経営工学特別講義	1・2後		2		○							兼3 集中
	デザインマーケティング	1・2後		2		○		1					
	製品創成産業論	1・2前		2		○		1					
	色彩工学	1・2前		2		○		1		1			
	デザイン材料論	1・2前		2		○							兼1
	ワークスペース計画論	1・2前		2		○		1					
	仮想空間デザイン工学	1・2後		2		○		1					
	生活空間環境論	1・2前		2		○		1					
	環境資産経営論	1・2前		2		○							兼3 集中
	デザイン経営工学インターシップⅠ	1・2通		6			○	6	3	1	2	1	
	デザイン経営工学インターシップⅡ	1・2通		6			○	6	3	1	2	1	
	デザインマネジメント演習Ⅰ	1前	3				○	6	3	1	2	1	
	デザインマネジメント演習Ⅱ	1後	3				○	6	3	1	2	1	
	特別課題実験及び演習Ⅰ	1前	3					6	3	1	2	1	
	特別課題実験及び演習Ⅱ	1後	3					6	3	1	2	1	
	特別研究	1～2通						6	3	1	2	1	
小計（24科目）	—	12	46	0	—		6	3	1	2	1	兼14 —	
合計（100科目）		—	12	165	0	—	6	3	1	2	1	兼105 —	
学位又は称号	修士（工学）	学位又は学科の分野			工学関係								

【既設専攻教育課程表：デザイン学専攻】

教育課程等の概要（事前伺い）

（工芸科学研究科デザイン学専攻）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻共通科目 数学系	数理応用演習	1・2前		1		○									兼4 ※演習
	数理科学特論 I	1・2前		2		○									兼3
	数理科学特論 II	1・2前		2		○									兼3
	数理科学特論 III	1・2前		2		○									兼4
	数理応用代数	1・2後		2		○									兼1
	数理応用幾何	1・2後		2		○									兼1
	数理応用解析	1・2後		2		○									兼1
	数理応用統計	1・2後		2		○									兼1
	代数学セミナー	1・2前		2		○									兼2 ※演習
	幾何学セミナー	1・2前		2		○									兼3 ※演習
	解析学セミナー	1・2前		2		○									兼2 ※演習
	確率論セミナー	1・2前		2		○									兼1 ※演習
	英語系	Academic Writing	1・2 前・後		1		○								
書くための英文法総仕上げ		1・2前		1		○									兼1
Presentation Strategies		1・2 前・後		1		○									兼1
Technical English		1・2 前・後		1		○									兼1
Business Communication		1・2前		2		○									兼1
English for International Conferences		1・2前		1		○									兼1
TOEIC受験集中対策		1・2 前・後		1		○									兼2
Media English: Listening, Reading and Discussion		1・2後		1		○									兼1
Presentation English: Listening, Reading and Academic Reading		1・2前		1		○									兼1
Content and Language Integrated Learning I		1・2 前・後		1		○									兼2
Content and Language Integrated Learning II		1・2後		1		○									兼1
Content and Language Integrated Learning III	1・2後		1		○									兼1	
高等教養セミナー系	高等教養セミナー1	1・2前		1		○									兼1
	高等教養セミナー2	1・2前		1		○									兼1
	高等教養セミナー3	1・2後		1		○									兼1
	高等教養セミナー4	1・2後		1		○									兼1
	高等教養セミナー5	1・2後		1		○									兼1
	高等教養セミナー6	1・2前		1		○									兼1
	高等教養セミナー7	1・2後		1		○									兼1
	高等教養セミナー8	1・2後		1		○									兼1
	高等教養セミナー9	1・2前		1		○									兼1
	高等教養セミナー10	1・2後		1		○									兼2
	高等教養セミナー11	1・2後		1		○									兼2
	高等教養セミナー12	1・2後		1		○									兼2
	高等教養セミナー13	1・2前		1		○									兼1
	高等教養セミナー14	1・2前		1		○									兼1
	高等教養セミナー15	1・2前		1		○									兼1
	高等教養セミナー16	1・2前		1		○									兼1
	高等教養セミナー17	1・2前		1		○									兼1
高等教養講義	1・2後		1		○									兼7	

【既設専攻教育課程表：デザイン学専攻】

教育課程等の概要（事前伺い）

（工芸科学研究科デザイン学専攻）

人文系	比較文学特論	1・2後	2	○									兼1	
	制作思想	1・2前	2	○									兼1	
	宗教文化論	1・2前	2	○									兼1	
	京の伝統工芸—知 美 技(課題解決セミナー1)	1・2前	2	○									兼3	※演習集中
	テックリーダー演習I：起業工学	1・2前	2	○									兼6	※演習集中
	テックリーダー演習II	1・2前	1		○								兼2	
自然科学系	環境化学特論	1・2後	2	○									兼1	
	生体行動科学特論	1・2前	2	○									兼2	
	バイオメカニクス特論	1・2後	2	○									兼3	
	「ものづくり」総合プロデュース論	1・2前	2	○									兼2	集中
インターンシップ系	インターンシップ I	1・2前	1		○		6	3	1	2	1			
	インターンシップ II	1・2前	2		○		6	3	1	2	1			
	グローバルインターンシップ I	1・2前	1		○								兼1	
	グローバルインターンシップ II	1・2前	2		○								兼1	
	アカデミックインターンシップ (国内)	1・2通	2			○							兼4	集中
	アカデミックインターンシップ (海外)	1・2通	2			○							兼1	集中
PBL系	ME310: グローバルイノベーションプログラム I	1・2後	4			○	6	3	1	2	1	兼1	集中 デザイン学専攻は専門教育科目として開講	
	ME310: グローバルイノベーションプログラム II	1・2前	4			○	6	3	1	2	1	兼1	集中 デザイン学専攻は専門教育科目として開講	
	実践プロセスデザイン I	1・2前	2		○							兼7	※演習・実習	
	実践プロセスデザイン II	1・2後	3		○							兼5	※演習・実習 集中	
KIT大学院科目	プロジェクト・マネジメント	1・2後	2		○								兼1	
	IGP 知的財産権論	1・2前	2		○								兼2	集中
	産業創出論	1・2前	2		○								兼4	集中
	伝統産業特論 I	1・2前	2		○								兼8	※演習集中
	伝統産業特論 II	1・2後	2		○								兼8	※演習集中
	ジェロントロジー入門（超高齢社会のユニバーサルデザイン）	1・2後	2		○								兼3	集中
	繊維系合同研修	1前	2			○							兼1	集中
	繊維系資格概論	1・2後	2		○								兼1	集中
	繊維・ファイバー工学特論 I	1・2通	1		○								兼1	集中
	繊維・ファイバー工学特論 II	1・2通	1		○								兼1	集中
	繊維・ファイバー工学特論 III	1・2通	1		○								兼1	集中
	繊維・ファイバー工学特論 IV	1・2通	1		○								兼1	集中
	繊維基礎科学（英語版e-Learning科目）	1・2後	2		○								兼1	
小計（76科目）	—	0	119	0	—	5	6	1	2	0	兼92	—		

【既設専攻教育課程表：デザイン学専攻】

教育課程等の概要（事前伺い）																		
（工芸科学研究科デザイン学専攻）																		
専門教育科目	デザイン学領域	アドバンストデザインプロジェクトⅠ	1通		2			○			5	6	1	2	0			
		アドバンストデザインプロジェクトⅡ	2通		2			○			5	6	1	2	0			
		伝統文化とデザイン	1・2前		2			○			2							
		技術革新とデザイン	1・2後		2			○			2							
		デザイン学特別演習A	1・2前		1				○		5	6	1	2	0		集中	
		デザイン学特別演習B	1・2後		1				○		5	6	1	2	0		集中	
		建築史	1・2前		2				○								兼5	
		デザインプロジェクトA	1・2前	4					○		5	6	1	2	0		集中	
		デザインプロジェクトB	1・2後	4					○		5	6	1	2	0		集中	
		ME310:グローバルイノベーションプログラムⅠ	1・2後		4					○		5	6	1	2	0		兼1 集中 他専攻は専攻共通科目として開講
		ME310:グローバルイノベーションプログラムⅡ	1・2前		4					○		5	6	1	2	0		兼1 集中 他専攻は専攻共通科目として開講
		フィジカルインタラクティブデザイン	1・2前		4				○		2							兼3 ※演習
		ソーシャルインタラクティブデザイン	1・2後		4				○		2							兼4 ※演習
		デザイン学実務実習	1・2通		2					○	5	6	1	2	0			集中
		共創デザインアプローチ	1・2後		2				○		1							兼1
		プロダクトデザイン論	1・2前		2				○		1	1						
		ヴィジュアルデザイン論	1・2後		2				○		1	1			1			
		インテリアデザイン論	1・2後		2				○		1				1			
		デザイン学インターンシップⅠ	1・2通		6					○	5	6	1	2	0			
		デザイン学インターンシップⅡ	1・2通		6					○	5	6	1	2	0			
		デザイン学特別講義A	1・2前		1				○		5	6	1	2	0			集中
		デザイン学特別講義B	1・2後		1						5	6	1	2	0			集中
		特別制作	1~2通								5	6	1	2	0			
小計（23科目）	—	8	52	0	—	—	—	—	5	6	1	2	0	兼14	—			
価値創造学領域	アドバンストデザインプロジェクトⅠ	1通		2				○		5	6	1	2	0				
	アドバンストデザインプロジェクトⅡ	2通		2				○		5	6	1	2	0				
	伝統文化とデザイン	1・2前		2				○		2								
	技術革新とデザイン	1・2後		2				○		2								
	建築史	1・2前		2				○								兼5		
	都市史	1・2前		2				○								兼5		
	感性論特論	1・2後		2				○			1							
	近代造形史特論	1・2前		2				○			1							
	美術展示特論	1・2前		2				○			3							
	価値創造学実務実習	1・2通		2					○	5	6	1	2	0		集中		
	博物館資料実習Ⅰ	1前		2					○	5	6	1	2	0				
	博物館資料実習Ⅱ	1後		2					○	5	6	1	2	0				
	博物館資料実習Ⅲ	2前		2					○	5	6	1	2	0				
	博物館資料実習Ⅳ	2後		2					○	5	6	1	2	0				
	価値創造学演習Ⅰ	1前後	4						○	5	6	1	2	0				
	価値創造学演習Ⅱ	2前後	4						○	5	6	1	2	0				
	研究指導	1~2通								5	6	1	2	0				
小計（17科目）	—	8	28	0	—	—	—	—	5	6	1	2	0	兼10	—			
合計（116科目）		—	16	199	0	—	—	—	5	6	1	2	0	兼110	—			
学位又は称号	修士（工学）			学位又は学科の分野				工学関係										